

和泉村産ウスバシロチョウの翅脈異常

長 田 勝

1974年6月9日、福井県大野郡和泉村上伊勢で採集したウスバシロチョウ *Parnassius g-lacialis* 39個体(37♂2♀)のうち、2♂に翅脈異常がみられるので報告する。

異常個体の1♂は左後翅の第6・7脈間に横脈がある(Fig.1)。これと同じ例は齊藤(1971)によって報告されている。他の1♂は同じく左後翅の第4脈が途中で分岐しているものである(Fig.2)。

日浦(1969)は同属のヒメウスバシロチョウについて、「本種の羽に翅脈異常がかなりの頻度であられるのは地表で蛹化するため、翅芽が寒害をうけるからではないかと思われる」と述べている。上伊勢産の1♂と、齊藤(前出)が報告したものは、全く同じような翅脈異常を示しており、蛹の時期に外部からの影響を受けやすい箇所が、ほぼ決まっているように思われる。

(引用文献)

日浦 勇(1969) 日本列島の蝶(第1部)大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録 第1集:
7

齊藤昭二(1971) ウスバシロチョウの翅脈異常 蝶と蛾22(3/4):85

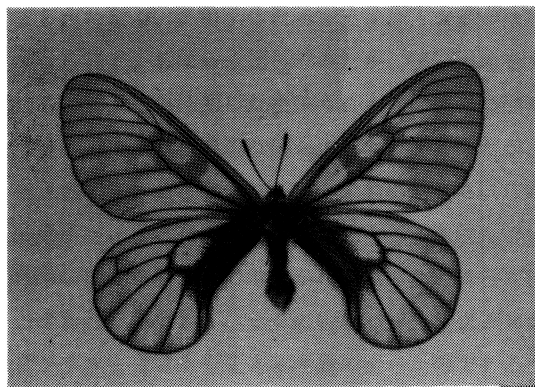


Fig. 1

Fig. 2

